

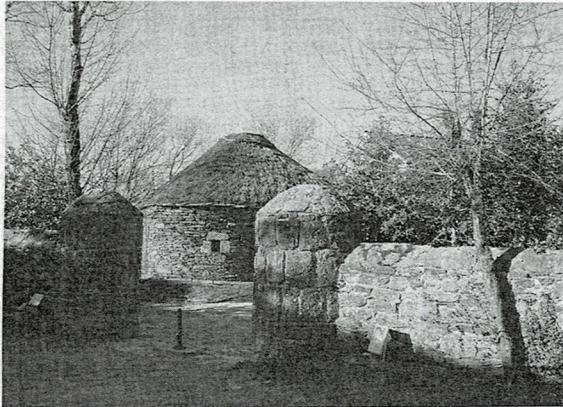
聖地巡礼の道 『吉野大峯・高野ルート』を世界遺産へ

—吉野の道とヨーロッパの道—
（上）

文化

な ら 民俗通信

282 鈴木 英一



サンチャゴ巡礼道、セブレイロ峠のバヨサ（石造の壁、屋根は茅葺き）

今年は、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されてから、15周年あたります。私は、この記念すべき年に、「(仮)吉野大峯・高野ルート」を世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録しようという活動（代表＝浅田隆・奈良大学名誉教授）に関わり、事務局を務めています。

（学生時代）

今から60年余り前の1956年（昭和31年）、第三次マナスル登山隊（櫻谷恒郎隊長）は、悲願のヒマラヤ山脈の8000mを超える14座の一つ、マナスルに登頂。イギリスやフランスが中心の西欧各国に混じての日本初の快挙に、国内外は沸き立つしました。

こんな時代に学生生活を送り、隊長や隊員の講演会を聞くうちに、すっかり山好きになりました。奥多摩の山々や谷川岳、上高地に足を延ばしました。就職後は土曜出勤が当たり前の時代で、山ごろでなく遠

く、有形・無形の文化財や天然記念物の保存が困難になつてゐる集落が特に吉野郡に多く見受けられ、これを何とかしなければという危機感が募りました。

さらに、「紀伊山地の霊場と参詣道」の三霊場のうち、吉野・熊野・高野の道は、それぞれ世界遺産に登録されているのに、何故「吉野・高野」の道は登録されていないのか、という疑問、また天川村・洞川（ひづるがわ）のある旅館の社長の「数年前に大峯参りの講の人たちが2万人を切り、年々千人単位で減少している」という言葉が気になりますが、世界遺産登録の先駆例を知ると、スペインを

（サンチャゴ・デ・コンポステーラ）

スペインのガルシア州にあるキリスト教の聖地、サンチ

アゴ・テ・コンポステーラ

の道は、1993年に「世界遺産」に登録されました。5

年後の1998年の巡礼者は

3万1千人でしたが、20年

後の2017年には、10倍近

い30万10400人となりまし

た。「その理由が知りたい

と、現地で100キロを歩くツ

アに参加しました。行程は、

12日間、往復に5日かかり、

実質歩くのは7日間です。道

はポルトガル人の道、カタル

ニア人の道等々たくさん有

りますが、巡礼者の7割を占

めるのがビスコイー山脈から約

800キロの「フランス人の道」

で、その内100

キを歩くコースで

す。

カミーノ協会発

行の「巡礼証明書」

をもつて、100キロ以上歩く事

が必要で、乗馬の

馬を100キロ、自

転車の人は200

キと決められています。

歩いたことを

証明する「巡礼

手帳」を持ち歩き、

沿道の教会、宿泊

所、レストラン、バル等々、

立ち寄り先でスタンプを押し

てもらいます。また、巡礼中

を証明する有名な「ホタマ

をぶら下げます。

アルベルゲの周辺には、レ

ストラン、バル、土産物屋、

民泊等々が増加し、ガイドさ

人の話によると、「半年ぶり

になると必ず新しい店が何軒

も開業している」とのことだ、

次第に街が作られていくよ

うです。

この街作りの方法は、大い

に参考になります。若い人も

たくさん集まってきていま

す。新たに若い人が集まるこ

とが街の再生になり、ヒト

だけでは無理だと想いま

す。

た。(すみません)(仮)

吉野大峯・高野ルート

世界

遺産

追加登録推進協議会事務

局

（上）

この項続く、次回は3月

1日付

20年で巡礼者が10倍に



サンチャゴ巡礼道の、100キロスタート地点の道

訪ねました。